

第5回 知識共創フォーラム 発表募集のご案内

<http://www.jaist.ac.jp/fokcs/>

知識は、人間の生命・安全保障から企業・都市・国家の経営、そして地球規模の持続可能社会構築に至るまであらゆる社会的活動の中核を担う要素です。旺盛な知的好奇心をもって、個人や組織における知識の創造・共有・活用に潜む知的神秘を解明し、より高度に成熟した知識社会を実現していくための指針を提案していくことは、知識科学の大きな学術的使命です。この実現のためには、

1. 幅広い視野に基づいた社会や生活における知識の深い洞察と問題提起
2. 知識の創造・共有・活用に関わる前例にとらわれない独創的な仮説やモデルの構築
3. 知識を適切に抽出・評価できる方法論による仮説検証とモデルの洗練

を継続的に行っていくことが必要であり、同時に、研究者や実務家との分野を超えた密度の濃い議論が不可欠です。

このような意識のもと、研究報告者と参加者が知識を共に創造していくことを通じ、広く知識科学研究の基盤を形成していくことを目的として、第5回知識共創フォーラムを開催します。

会期：2015年3月7日（土）、8日（日）

会場：金沢勤労者プラザ、405 研修室 **注）会場が変わりました**

石川県金沢市北安江 3-2-20 （金沢駅から徒歩 10 分）

1. 主な構成

第5回知識共創フォーラムは、以下の4種類のセッションによって構成されます。

I. 招待講演セッション：

招待講演タイトル：「21世紀群衆論 ―ソーシャルメディア時代の
創発的集合現象、その光と影―」

招待講演者：伊藤 昌亮 准教授

【愛知淑徳大学 メディアプロデュース学部】

II. テーマセッション：「知の集合力」（20分発表、20分合同質疑応答）

インターネット、ソーシャルメディアの発展と共に、ネットワークでつながる人々のあいだの様々な集合現象が見られるようになり、これを指す「集合知」などという新しい概念も登場してきました。それは、ネット民主主義ともいわれる新しいガバナンス＝共治システムや意思決定シ

システムと対になって語られることも多く、ポジティブな未来志向の意味合いが込められている印象があります。しかしその一方で、世界の片隅においても社会全体の表象が抱けるようになったネットワーク効果のネガティブな帰結として、集団的あるいは孤立的な分化現象やそれに伴う暴力、差別、ネット上の炎上、煽動といった現象も顕著に見られるようになってきました。知の集合力の「力」は、ポジティブにもネガティブにも、また中立的・調整的にも現れうるものとして捉えるべきでしょう。伝統的な社会学においては、群衆論、コミュニティ研究、社会的集合行動といった研究を通じて、インターネット以前にはむしろそのネガティブな側面を主に研究してきたといっても過言ではありません。また、知の集合力の主体を、人間や組織だけではなく、人工物や生命体へと広げたときには、粘菌や無機物質の知的ネットワーク、ビッグデータの活用なども、知の集合力の研究対象となりうるでしょう。

本テーマが対象とする領域は、代表的なものを挙げるだけでも次のように多岐にわたると考えられます。

- ・ 不特定多数／特定多数のメンバーによる創発的な問題解決・合意形成・意思決定の可能性の広がり
- ・ マスコミや大企業との非対称な関係から脱却した消費者主導の評判形成
- ・ サービスやモノの提供者と利用者が渾然一体となった価値共創によるダイナミックなイノベーション
- ・ 東日本大震災のような非常事態におけるダイナミックな情報共有とコミュニケーション
- ・ フラッシュモブやデモをはじめとするネットとリアルを横断する新しい集合現象
- ・ 知識科学の融合によるビッグデータの活用
- ・ イスラム過激派から、ヘイトスピーチ、嫌韓運動、反マスメディアデモなどにみられるグローバル／ナショナル／ローカルな集団分化現象
- ・ ネット上の炎上、いじめ、差別などの負の集団現象

これ以外にも、もちろん伝統的な社会学、組織論、社会心理学、知識創造研究や、情報科学のネットワーク研究なども、本テーマに大いに関係するところです。芸術や教育、科学技術などにおいても、興味深い現象があるでしょう。ぜひ広い研究領域の皆様のご参加を得て、「知の集合力」とは何かを探究する研究の意欲的なご発表、学際的な議論の展開を期待しています。

III. 一般セッション（20分発表，20分質疑応答）

本セッションでは、各自の知識科学研究の成果を報告し研究を進めることを目的とします。登壇者は知識科学に関連すると考えられるテーマについて、自らの研究活動を魅力的に説明することが期待されます。また、参加者は発表に対し、補うべきロジックや新しい展開の方向性についてアイデアを提供することが期待されています。

IV. シーズ（種）セッション（15分発表，20分質疑応答）

知識の創造・活用を促進させると考えられる、自らの持つ技術やコンセプトの種を成長

させることが目的のセッションです。登壇者は自らのアイデアを明瞭かつ魅力的に解説することが、また、参加者は当該アイデアの持つ理論的・実用的意義について考えコメントすることが期待されます。

V. インタラクティブセッション（1時間30分発表および質疑応答）

発表者と参加者たちの間で長時間・双方向のインタラクションが望まれる知識科学に関する研究成果（研究途上成果も含む）についてポスター形式で発表し、参加者との知識共創によって研究をさらに発展させること目的とします。

議論のポイントを明確にするため、発表者には全参加者に対してショートプレゼンを行っていただきます。参加者は発表者が提示した論点を中心に、発表内容について建設的な議論を行ってください。

2. 対象課題

知識の創造・共有・活用に関わるあらゆる研究を対象とします。特に、以下の課題に関係のある話題を歓迎しますが、これに限るものではありません。

1. 幅広い視野に基づいた社会や生活における知識の深い洞察と問題提起
2. 知識の創造・共有・活用に関わる前例にとらわれない独創的な仮説やモデルの構築
3. 知識を適切に抽出・評価できる方法論による仮説検証とモデルの洗練

以下、本フォーラムにおける参考キーワードです。

知識科学	ナレッジ・マネジメント	研究開発マネジメント	イノベーション・マネジメント
サービスサイエンス	医療サービス	知識表現	知識発見
メディア・インタラクション	発想支援システム	スキルサイエンス	デザイン思考
感性情報処理	知識獲得	身体化された認知	認知モデル
制度設計	知識経済	意思決定分析	認知科学
公共政策	地域経営	地域イノベーション	知識人類学

3. 本フォーラムでの発表の取り扱い

- まず、発表のアブストラクト（1000字程度、かつ、A4で1枚以内）を、下記の「5. 投稿方法」に従って投稿していただきます。
- アブストラクトの内容を複数のレビュアーが査読した上で採否を決定します。
- [II]～[IV]のセッションに採録された方にはフォーラム開催の前に発表に関する研究会報告資料を提出していただきます（ページ数は4～10ページの範囲内）。
- なお、インタラクティブセッションに採録された方の研究会報告資料の提出は任意と

します。

- 提出された研究会報告資料は、会期中に本フォーラム参加者のみで共有される資料となります。研究会報告資料は同意された方のみ後日ウェブサイトを通じて公表されます。研究会報告資料の公開に同意されない方も発表の要約は後日ウェブサイトを通じて公表されます。
- 本フォーラムでは博士課程に在籍する若手研究者の研究発表を歓迎しております。研究途上のものであってもシーズセッションやインタラクティブセッションにおける発表と議論を通じて、研究のさらなる発展が行われることを期待しております。

4. 主なスケジュール

- アブストラクト投稿〆切：~~2014年12月26日(金)~~ 延長：2015年1月4日(日)
- 採録通知予定：2015年1月中旬
- 研究会報告資料提出〆切：2015年2月13日(金)
- 第5回知識共創フォーラム開催：2015年3月7日(土), 8日(日)

5. 投稿方法

知識共創フォーラムのウェブサイト<<http://www.jaist.ac.jp/fokcs/>>にアクセスし、登録の上、アブストラクトのPDFファイルをアップロードして下さい。投稿に際して、テーマセッション、一般セッション、シーズセッション、インタラクティブセッションのどれに投稿するかを指定していただきます。ただし、選考結果によっては、ご希望のセッションとは異なるセッションに割り当てられることがあります。

アブストラクト原稿のフォーマットは、ウェブサイトにテンプレートファイル(本文1000文字程度、かつ、A4で1ページ以内)を用意しましたので、そちらをお使い下さい。フォーマットにありますように英語タイトルを含むようにしてください。また、図表を挿入していただいても構いません。

6. 賞

[II]～[IV]のセッションにて発表された方の中から優秀であると認められた発表に対して賞を授与します。この他に、公共政策、地域経営の実践に寄与する優れた研究に対し、第1, 2回知識共創フォーラム開催地である能美市より能美市長賞が贈られます(能美市長賞は研究会発表報告資料をもとに決定しますので、能美市長賞の候補となるには事前にエントリーしていただき、かつ研究会報告資料をウェブサイトで公開することに同意していただく必要があります)。

また、本フォーラムでの議論(質疑応答)をもとに後日改訂された研究会報告資料の中から優秀論文賞と共創賞が授与されます([V]のインタラクティブセッションの発表も研究会報告資料をフォーラム前に提出していれば、フォーラム後に改訂をへて、選考にエント

りできます。) 改訂後の賞の対象となるのは本フォーラムのウェブサイトにて研究会報告資料の公開に同意していただいた発表に限ります。

7. 問合せ先

知識共創フォーラム事務局

Email: <office-fokcs@onto.jaist.ac.jp>